

B 1 上肢帯とパターンとの関係について(第1報)
英立女大家政 間壁治子 ○河合伸子 百田裕子

目的 より適合し易い衣服原型を得るために、上肢帯の形状の違いとパターンとの関係について検討した。特に、腕付根断面の形状、肩部形態、及び身頃・袖パターンとの関係について検討を試みた。

方法 被験者成人女子169名について、以下の3種手法によりデータを採取した。

1. 身体各部の計測 32項目
2. 1.の計測項目より作成し、試着・補正された原型及び原型より採取したデータ、前・後身頃19項目 袖13項目
3. 肩部の石膏型取りを行い、肩部形状を計測すると共に、雄型を採取し、モアレ撮影を行った。更に、腕付根部をサージカルテープで型取りし、腕付根断面資料とした。

石膏2項目 腕付根断面18項目

採取した計測値について、各種主成分分析を行った。そのうち42項目についての結果を述べる。

結果 第1主成分は、それぞれの大きさを表わす因子が抽出された。第2主成分は、腕付根断面の形状分類で、前・後厚径のバランスによる分類が可能となった。第3主成分は、石膏より得られた方向性(前肩・後肩)と身頃パターンの肩部との関係が明らかになった。以下、腕付根断面の深さと厚径とのバランスと、袖パターンにおける袖山中心の設定の変化、及び袖山線の変曲点の位置に関する因子が認められた。又、身頃肩部における肩下がり等との関係が表出した。